

平成30年度 社会科 授業改善推進プラン

大田区立蓮沼中学校

1 昨年度の授業改善推進プランの検証

(1) 成果

- ・第2学年では、資料活用の技能を除き、昨年度より目標値を上回る結果となった。
- ・第3学年では、教科の正答率及び観点別正答率において、目標値を上回っていたが、今年度は下回る結果となった。

(2) 課題

- ・家庭学習の定着と復習の徹底
- ・基礎的な知識・理解の定着
- ・思考・判断・表現力の育成

2 大田区学習効果測定の結果分析

(1) 達成率（経年比較）

	平成30年度結果	平成29年度結果	平成28年度結果
第1学年	目標値より1.8ポイント下回る。	/	/
第2学年	昨年度に比べ、6.0ポイント下降し、目標値をポイント1.1上回る。	昨年度に比べ、3.5ポイント上昇し、目標値より1.8ポイント下回る。 (第1学年時)	/
第3学年	目標値を1.6ポイント下回る。	目標値を1.7ポイント上回る。 (第2学年時)	目標値より5.1ポイント下回る。 (第1学年時)

(2) 分析（観点別）

① 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
目標値を1.5ポイント下回った。	目標値を0.6ポイント下回った。	目標値を1.2ポイント下回った。	目標値を3.9ポイント下回った。

② 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
昨年度に比べ、0.3ポイント上回り、目標値を2.2ポイント上回った。	昨年度に比べ、1.6ポイント下回り、目標値を3.9ポイント上回った。	昨年度に比べ、13.4ポイント下回り、目標値を1.6ポイント下回った。	昨年度に比べ、1.8ポイント下回り、目標値を2.3ポイント上回った。

③ 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
区や全国の平均正答率と比較するとやや下回る。	区や全国の平均正答率と比較するとやや下回る。	区や全国の平均正答率と比較すると下回る。	区や全国の平均正答率と比較すると下回る。

3 授業改善のポイント（観点別）

(1) 第1学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
授業規律を徹底させ、学習に取り組む姿勢を身につけさせる。日常の身近なことを話題にし、学習意欲を引き出す。	資料や統計、グラフをもとに思考のできる発問を行い、考える機会を設ける。生徒の積極的な発言を促し、発表しやすい環境を整備する。	資料や統計、グラフを活用し、どのようなことに着目して、読み取ればいいかを理解させる。	既習事項の確認を行い、復習の機会を設ける。単元ごとの復習確認テストを実施し、知識の定着を図る。

(2) 第2学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
ニュースや新聞を取り上げて、生徒に興味・関心をもたせ、学習したことにつなげられるようにする。	個人で考える時間を設けたり、ペアワークをさせたりして、思考・判断・表現する力を身につけさせる。	資料や統計、グラフを活用し、読み取るための学習を繰り返すを行い、技能の向上を図る。	1年次の内容と関連させながら、既習事項の確認を行う。単元ごとの復習確認テストを実施し、知識の定着を図る。

(3) 第3学年

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	技能	知識・理解
日頃のニュースや新聞を活用し、歴史や公民の学習と結びつけられるようにする。進路にかかわることに関連づけながら、学習を行う。	ペアワークやグループワーク（4人組）を通して、原因や問題の背景について考えさせる機会を設け、思考・判断・表現する力を身につけさせる。	資料を活用して考える学習を増やし、資料を読み取る力を身につけさせる。資料の特徴、背景、因果関係など、関連性などに結びつけられるように学習する機会を設ける。	入試問題などを活用し、分野別に知識の確認や整理を行い、これまで学習したことへの定着を図る。